



Together with Africa and Asia Association (TAAA)

TAAA 南アフリカ帰国報告会

タイトル 南アの学校・地域への教育と農業技術指導 ～環境、農業、食の諸問題に照らして～

日時 2011年1月9日(日) 午後2時～4時半

会場 浦和コミュニティセンター 第13会議室

内容 1部 講演 平林 薫 (TAAA 南ア事務所代表)

・コミュニティの中心としての学校の可能性「本と畑」～自立に向けての図書支援活動、広がる菜園活動～

2部 DVD講演 津山直子 (関西大学客員教授・特定非営利活動法人アフリカ日本協議会理事)

・生物多様性を守る住民主体の農業～「ないもの」ではなく「あるもの」に目を向ける～

主催 アジア・アフリカと共に歩む会 Together with Africa and Asia Association (TAAA)

後援 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)、特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会 (AJF)

報告会レポート

2011/01/12 TAAA 会員 鯨井幸一

TAAAでは、毎年、日本の皆さまに当会の活動内容を知って戴くため、当会南アフリカ事務所代表の平林薫さんの一時帰国に合わせ、報告会を開催しています。

当日は、ロケーションの良さ(浦和駅から徒歩1分以内)、天候にも恵まれ、38名の方にご参加戴きました。

第一部は、平林さんに『コミュニティの中心としての学校の可能性「本と畑」～自立に向けての図書支援活動、広がる菜園活動～』と題し講演して戴きました。まず、南アフリカの現状について報告があり、“拝金主義”が覆いつつあることを、最近の南アフリカで起こった、二つの話題を通してレポートされました。



次に、当会のプロジェクトの進捗状況についての報告がありました。まず、2010年4月～2011年3月の予定で実施されている、国際ボランティア貯金による助成事業『基礎教育支援のための図書配布、本棚・コンテナ図書室の配備』について。支援している40校の現状について報告があり、教員に対する図書指導の教育に力を入れているとともに、本の数に対して、施設(本棚やブックエンド)が追いついていない現状。手を洗ってから本に触るなどのマナーについての教育にも力を入れているとのこと。また、図書室が足りない学校にコンテナ7個、プレハブ1個を寄贈したことも報告されました。

続いて、2010年7月～2012年12月の予定で実施されているJICAの助成金による『学校を拠点とした地域農業促進プロジェクト』についての報告がありました。

支援対象としている、3つのコミュニティについて報告があり、菜園だけでなく“食育”活動にも力を入れているというレポート。また、一部コミュニティでは、収穫した野菜を流通させるレベルまでに達しているという嬉しい報告もありました。

最後に、写真のスライドショーによる説明があり、一つのビスケットをみんなで仲良く分けて食べている写真がとても、印象に残りました。

第二部は、関西大学客員教授・(特活)アフリカ日本協議会理事・日本国際ボランティアセンター元南アフリカ現地代表 津山直子さんによる、『生物多様性を守る住民主体の農業～「ないもの」ではなく「あるもの」に目を向ける～』と題するDVD講演でした。

まず、アパルトヘイトが奪った黒人の、誇りと自信、尊厳を取り戻すため、「環境保全型農業」の構築に取り組んできた経緯が述べられました。

雨水などを使い「あるもの」を活かした農業の展開を目指し、環境と農業が対立しないよう、持続可能な取り組みの重要性を指摘されました。

現在、問題になっていることとして、ドナー政府（主に欧米）による『パッケージ援助』が挙げられました。種以外に、化学肥料、農薬、トラクターをセットとした援助です。しかし、農薬を使った農業は、土地を荒らし、結果的に収穫高の低下を招く現状が指摘されました。

また、遺伝子組み換えの種子による、農業の弊害が指摘されました。遺伝子組み換えの種子を使うと、従来種子を駆逐し、伝統的な農作が不可能になってしまう点が強調されました。パッケージ援助と同様、遺伝子組み換えによる農作は結果的に収穫高の減少を招くことは証明済みだそうです。

食料増産計画の名の下による、一方的な支援は、結果的に農作物の生産の減少を招くという、グローバリゼーションの問題が、特に強調されました。

津山さんは、その地にあった農業、化学肥料によらない有機農法による農業を支援し、それがいかに大切で、援助は現場の声を十分に反映させなければいけないことも、述べられました。



最後に、質疑応答が行われ、「W杯後のスタジアムの利用（稼動状況）はどうなっているのか」「南アフリカでは英語は何年生から学ぶのか、また、T A A Aが寄贈した本はどのように利用されているのか」「田舎に住む高学年になった子どもは、都会に住む子どもが簡単に得られる情報を、どのようにして得るのか」「南アフリカの学校の教師は資格が必要なのか。また、教師は人気のある仕事なのか」という質問があり、平林さんが一つひとつ丁寧に回答していました。

今回は、若い参加者も数多く見受けられ、南アフリカに対する関心の高さが窺えました。

南アフリカと日本の架け橋として、これからもT A A Aの果たす役割の大きさに、身の引き締まる思いをした報告会でした。

以上